

考ふべき諸種の事情を數へ得られるであらうが、これを要するに社會のあらゆる方面に庶民が進出し得ることになつたといふ一般的情勢から割出して考へられねばならぬことである。

宋代においては一般庶民の文化の程度が高まり、その生活が向上するに至つたことは、當時の無名の人の墳墓から多數に發見せられる日用品の類からも如實に知り得られることで、學問文藝の普及もその一現象たるに外ならないのであるが、この情態は從來彼等の文化生活が、或は士庶の區別の爲に、或は世の動亂の直接間接に及ぼす影響によつて發達を阻碍されてゐたのが、宋の一統天下の下に、平穩なさうして階級的抑壓を蒙ること少き社會生活を營み得るに至つて、すべての方面に漸次その水準線を上げて來たのに外ならぬ。そうしてこの一般社會の人々の中、志を有するものは争うて特に學問の研究に従ひ、科擧に應じて立身出世の道を求めようとしたから、自然高等の教養ある人々が多數世に出ることとなり、そうして當然これ等の人々が社會の動きを導き、經濟事情の進展などと相待つて、益々文化の一般的普及發達の勢を生ぜしむるに至つたものである。若し中世期と近世期との區別を庶民階級の社會的進出といふ特徴に求めるとすれば、これを安史の亂後の時代に置き得べきことは前に述べたところであるが、別にこの特徴を君主權の伸展とか、文化の一般的普及とかいふ點に求めるとすれば、まさに宋代を以てこれに擬することが適切であると見なければならぬ。

北宋の文化の發見